



動物と出会い 人と触れ合って 心のときめきをコーディネートするために — ZOO VOLUNTEER

円山動物園
ボランティア会

ふれあい・コンタクト

ニュースレター第60号2014年(平成26)年5月10日発行 発行責任者:高橋淑子(代表世話役)
円山動物園ボランティア会 / 〒064-0959 札幌市中央区宮ヶ丘3 札幌市円山動物園経営管理課気付 TEL(011)621-1426

平成26年度ボランティア会の活動がスタート



円山動物園ボランティア会
代表世話役 高橋 淑子

平成26年度がいよいよ始動しました。
世話役代表として、今年度の目標を三つ立てました。

- ①ボランティアの一人一人が笑顔で楽しく活動できること。
- ②ボランティアと接した来園者に『楽しかった。また来ます』と言ってもらうこと。
- ③動物園からは『ボランティアがいてくれて良かった』と言ってもらうこと。

ボランティアは誰もができる時にできる事を・・・
が基本だといいます。月4回の活動、お互いの事情を考慮し、動物園にいる間はニコニコ・ウキウキと活動していれば自然にそれがお客様にも伝わるでしょうし、お客様が喜んでくだされば、来園者100万人達成も夢ではなく、動物園に貢献できることになる・・・それほど難しい目標ではないと思います。

ボランティアと動物園の調整役として新しく箕岡係長が赴任なさいました。新米の二人でより良いボランティア活動のために・・・と考え、一致した意見が、「情報の共有・連携」ということでした。得られた情報は一人のためではなく、ボランティア会全体のために、気付いたことは個人的なクレームではなく、動物園へのアドバイスとして活用できれば今まで以上に、強力なタッグを組むことができるのではないのでしょうか。

嫌なことがあっても、動物園には、魅力的な動物がいて、頼れる仲間もいるから、笑顔になって帰宅・・・そんな活動を皆で目指しましょう。そのための、窓口として、いつでもどんな情報でも受け付けますので、1年間、よろしく願いいたします。



札幌市円山動物園
園長 田中 俊成

ボランティア会の皆様、はじめまして。本年4月1日に円山動物園の園長に就任しました田中と申します。皆様方には、日頃から動物園ガイドをはじめ、園の行う様々な事業にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、昨年度の入園者数は、目標としていた100万人にはわずかに届かなかったものの、約96万人を数えました。また、就任後園内をいろいろと回っていると、来園された方々より感謝の言葉をたくさんいただきました。

これも、ボランティアの皆様のご支援によるものであると感じております。

今年は、ホッキョクグマの赤ちゃんもおらず、アフリカゾーンの工事本格化に伴う園内の分断化、モンキーハウスや熱帯鳥類館の改修工事が行われ、来園される方々の目玉となるような事業が少ない状況にあります。

そのような中で、来園される方々に「来てよかった」、「また来たい」と思っただけのよう、園職員が一丸となって努力してまいりたいと思いますので、ボランティア会の皆様におかれましても、引き続き来園の声掛けなど、是非ともお願いしたいと存じます。

今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

平成26年度 ボランティア会世話役	
代表 高橋淑子	副代表 作田征男・カフマン弘美
会計 加藤啓子	監査 高田敏文 広報 小熊瞳
高橋しのぶ・中島香代子・堂前恵子・小林正枝	
田辺るみ子・初貝敏枝	

ボランティア会開始式・総会

毎年4月の第2日曜日からボランティアの活動が始まります。

今年度も4月13日(日)午前9時30分から田中新園長のご挨拶、そしてその後、新しいボランティア登録証の交付が行われました。

3期生9名に10年活動表彰が行われ、「アフリカゾーンの概要について」の研修を行い終了しました。

11時45分からボランティア会総会に移り、元代表世話役、竹尾正巳氏が議長に選任され、平成25年度の事業、決算報告等が承認されました。

続いて、平成26年度の新世話役が紹介され(お名前は前頁に掲載)、祝福の拍手で承認されました。活動方針、活動計画、予算案等も承認され終了しました。

10年表彰

開始式では新園長のご挨拶の後、3期生の仲間9名に、園から表彰状を頂きました。

思い起こすと、11年前、半年に及ぶ研修が終わり所属班の動物を覚えることから始まり、先輩たちの伝授もあり、「ガイドにお役に立ちたい!」という想いから勇気と実践を足枷とし、10年間休まずにボランティアに取り組んできたことが、このような形で実を結んだのでとても嬉しいです。これを励みに、今後もボランティア活動をがんばって行こうと、気持ちを新たにしています。(やせい班 都築勝江・成田愛)



★ アフリカゾーン ★

アフリカゾーンの展示コンセプトは『アフリカのサバンナと水辺の動物を展示し、生命循環・食物連鎖と共生を伝え、動物の行動を効果的に見せる。』というものです。

また、これまでの円山動物園の施設の長所であった『動物をなるべく近くで見ることができること』や、アジアゾーンのようにお客様と動物がゆったりくつろぐことができる空間づくりも大切にしたいつもりです。

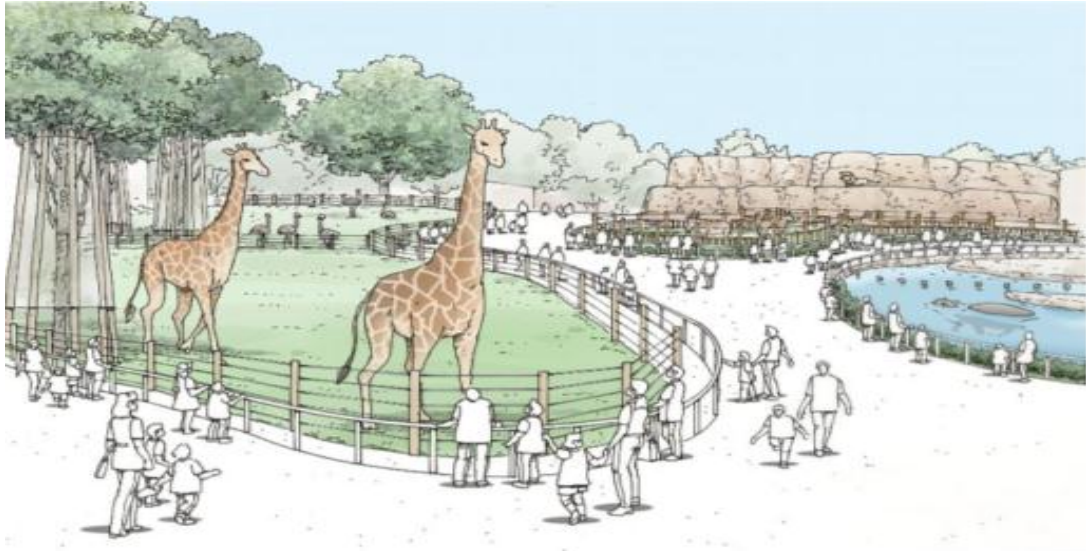
建物は傾斜地という特殊な地形を鑑み、2棟建てになっています。それぞれの建物の名前は現在検討中ですが、北側の建物にはカバ、ペリカン、シマウマ、エランド、ライオン、ハイエナを展示します。もう一方の建物にはキリン、ダチョウ、サーバルキャット、ミーアキャット、ハダカデバネズミ(円山初展示)を展示します。

全体的な展示の大きなポイントは『サバンナストリート』です。

サバンナや水辺の生き物たちに囲まれるような空間を作るため、観覧通路の両側に動物の放飼場を設けています。

“夢中でカバを見ていたら、後ろにキリンがいた” “ダチョウを見つめていてふと後ろを振り返るとエランドと目があった” という動物たちのすみかに人間が入り込んでいる感じになればいいなと思っています。

また、多くの動物を一堂に見渡せることも意識しましたので、動物たちの行動次第ではキリンやダチョウ、カバ、シマウマ、エランドなどを見ながら、遠くでライオンがそれらの動物たちを眺めているという光景をご覧いただくことができるかもしれません。



北側の建物のポイントは**水辺の空間**です。ペリカンやカバには深いプールを設け、側面のガラスから水中の様子を
ご覧いただけるようにしています。カバが水中を跳ねるように歩いたり、ペリカンが魚を追って泳いだりする様子をご
覧いただけるとと思います。



また、シマウマとエランドは同じ草食獣でもウマ科とウシ科で大きく異なります。新施設ではそれを見ていただくた
めにこの2種を並べて配置しています。食性の違いや性質の違いなどを実感できると思います。

ライオンやハイエナといった、アフリカの食物連鎖の一つの頂点である肉食動物は最も高い場所に配置しています。
お客様からの観覧もガラスを通して間近に観察したり、檻を通してその息遣いやにおいを感じたり、モート越しに遮る
ものなくライオンがくつろぐ様子を眺めたりと、いろいろな選択肢を持てるように配慮しました。特にハイエナは今ま
で狭い檻で暮らしていましたが、より広々とした空間を用意することができました。猛獣類の屋内施設はこれまではコ
ンクリート製で殺風景でしたが、新しい施設では土を入れるので、穴掘りをしたりする姿もご覧いただけると思います。

ガイドの研修をやりましょう！

クマチカ班 竹尾昌巳

最近、ツアーガイドやミニツアーガイドをやる人が各班とも固定化している感じがします。

曜日や時間帯の都合、また、意識の問題もあると思いますが、それにしてもガイドをやる人が少ない気がします。
色々な人達にやってもらうのが、ボランティア会のあるべき姿だと思います。

それにはベテランのガイドさんに先生になってもらい、3~4人をグループとしてガイドが少し苦手な人、動物の解
説がもう少しと言う人を対象に、ガイドの研修を何度も行ってはどうでしょうか。

“継続は力なり”と言います。繰り返し学習することが大事だと考えます。

ガイドボランティアになった以上、おもてなし日本一を目指し、ガイドの心と技をもっともっと磨きましょう。

小林キーパー出張報告会から

4月20日(日)サル山担当の小林飼育員が、高崎山自然動物園と熊本動物園の視察報告会を、スライドを交えながら行なってくださいました。

円山のサル山は老朽化したため、改修工事にかかることが決まっています。

高崎山は、昭和27年に付近の農家等の猿害を防ぐために計画され、お寺の境内を餌付けを始めたものだそうです。サル達は、日常は山中に居て餌の時間になると降りてくるとのこと。餌場にはメスと子ザル、そして強いオスだけが入って餌を食べるそうです。

飼育担当者が毎日3人で小麦を給餌したり、解説を担当しているとのことでした。

熊本動物園のサル山エリアは円山の1/3程度の面積で、14頭のサルが飼育されています。サル山の周囲を周路が囲んでいて、お客さまには2箇所のビューポイントが設けてあります。地面は土がむき出しで、掃除はほとんどせず、自然に任せているものの尿糞の臭いもしないそうです。そのかわり、冬の円山のように獣道が出来、そこだけ地面が固まるのが問題とのことでした。

長寿動物の死を悼んで はな子・栄子、長い間ありがとう！

ニホンザル『はな子』

『はな子』は平成26年2月2日、37年の天寿を全うして旅立ちました。

昭和57年4月京都美山町で畑荒らしをしていた一群が捕獲され、61頭の仲間と共に北国の動物園にやってきました。以来30年余、娘や孫、美山出身の『もみ子』『ギン子』と共に暮らして居ました。仲間にはカナダ、ロシア、韓国等の動物園へと移動し、北限のサルとして子供達の人気者になっています。



『はな子』は、数年前から白内障により目が見えなくなり、天気の良い日など手探りでゆっくり歩いている姿を見かけ、時には娘や孫たちに毛づくろいや、日向ぼっこ、昼寝をしている微笑ましい姿も見る事が出来ました。そんな『はな子』を見て、この冬を越せば、春には元気な姿を見られるかと思っておりましたが、残念でなりません。

最後まで見守ってくださった小林さん有難うございました。

『はな子お婆ちゃん』そちらからみんなを見守ってください。(ワイルド班 田中一江)

エゾヒグマ『栄子』

国内動物園では最高齢のエゾヒグマ『栄子』が安楽死の処置を執られました。

『栄子』は昭和48年、登別クマ牧場から来園しましたが、平成23年頃から後肢麻痺により起立不能となり、今年2月以来自力で餌を食べることが出来なくなり、床ずれがひどくなったため、これ以上の延命は苦痛を長引かせるという判断からの処置でした。



一般に30歳が寿命といわれるエゾヒグマですが彼女は41歳、過去15回の出産で32頭もの子供を生んでいます。

『栄子!』と大きな声で呼ぶと、つぶらな瞳の顔を向けてくれ、手を組んでどっしりと構えている姿はまるで貴婦人でした。動物病院入院後も沢山のファンの方から差し入れを頂くなど、人気者でした。今、『栄子』がいなくなりとても寂しくなりました。41年の長きにわたり大きな愛をありがとう!

(ワイルド班 藤川徳子)

春祭り大活躍のマルヤマン



投稿写真

